
平安貴族とオレ

正記貞信

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

平安貴族とオレ

【Nコード】

N3995C

【作者名】

正記貞信

【あらすじ】

歴史を勉強する大学生の、ふとした一コマ

夜が来る。お日様ともお別れだ。

嫌な時間だ。ふっと、伸びをして、頭をかきむしる。まったく。コンビニ袋片手に、大学へと戻る。中身は、いつもの冷し中華。いい加減飽きた味だが、大きな失敗もない、無難な味だ。

「よつ、と。」

いつものように、一段飛ばしで非常階段を駆け上がり、研究室に戻る。運動不足が気になる身には少し辛いが、この階段を使うといい。

「今日も、変わらんよなあ。いつもより、少し涼しいくらいか。なんか良いことでもないかな」

一人呟く。

開いた窓からは、風が吹込んでいて、蒸し暑かった昨日よりは、涼しい。

「平安時代の貴族」といったタイトルのプリントが、バタバタと音をたてるが、気にしない。

昔々、平安時代くらいに貴族って、羨ましい。なんか、楽で暇そうだから。歌さえ読んでりゃやさそう。

今の俺みたいに、なんとなく、努力もしないクセに、「いいことないかな」って言ってた貴族はいただろうな。

「ええ、いましたよ。もっとも、そんな人は誰にも相手されませんでしたけどね。私は、弓だって、結構上手いんですよ？」

…ん？声が聞こえる。

いや、声として

「聞こえる」のではなく、

「感じる」とでもいうのか。

こないだ授業でもらったプリントにあった、貴族の姿が、ふと気になった。

相変わらずバタバタ音を立てるプリントを取り上げて、絵巻のペー
ジを覗き込む。

そこには、見るからに弱そうな、文官の姿が描かれている。文官
の癖に、いっちょ前に弓なんか持ってやがる。

前にみた時は、

「絶対使えないだろ」とニヤニヤしながら思っていたが、今は心な
しか、以前よりも、

「お飾り」では無いように思えた。

—そんなに、私、弱くないんですよ？—

また聞えたよ。俺も疲れてんなあ。手早く冷し中華をたべたあと、
天井を見やった時、そんな声が聞えた。

気分転換に、手の親指と人差し指の間のツボと、頭のマッサージ
をする。効果はまあ、ボチボチだ。

さーて、再開、再開、と。

いつの間にか、涼しい風はやんでいて、少し汗ばみそうな空気にな
っている。

団扇片手に仰ぎつつ、レポートに取組む。

「俺だって、少しは頑張ってるっつーの。平安時代の”これから”
については、お前よりは、物知りだと思っぜ。」

意味もなく、絵巻の中の文官に、語りかける。

その時だけは、いつもは温和な顔つきの文官が、不機嫌な顔をして
いたような気がした。

（後書き）

はじめまして、初投稿です。読んで頂いて、ありがとうございます。

また機会があれば、ぜひ宜しくお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3995c/>

平安貴族とオレ

2010年10月9日22時14分発行